

第 1 1 0 3 回教育委員会会議録

1 日 時 令和元年 9 月 2 6 日（木） 午後 3 時 0 0 分～午後 5 時 0 0 分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 豊北教育長 西野委員 南部委員 原委員 山本委員
内田教育振興監 清川学校教育幹
星教育政策課長 小林学校振興課長 油谷高校教育課長
鈴木課長（高校学力向上） 山本義務教育課長 塚本課長（小中学力向上）
高橋生涯学習・文化財課長

4 議 題

日程第 1 第 2 7 号議案 福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について

日程第 2 第 2 8 号議案 令和元年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について

日程第 3 第 2 9 号議案 令和 2 年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について

5 審議事項

（１）開会宣告 午後 3 時 0 0 分

（２）会議録署名人の指名 西野委員 南部委員

（３）議事要録

教育長 本日の日程第 1 第 2 7 号議案から日程第 3 第 2 9 号議案、協議報告事項の 3 から 6 については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議。

—————当該議案を非公開と決する—————

◎協議・報告事項

（１）高校生学習状況調査の結果について

南部委員 この調査は、無記名で提出させるのか。

課長（高校学力向上） 無記名である。

南部委員 無記名なので、率直な意見が反映されていると想定すれば良いのか。

課長（高校学力向上） そうである。

- 南部委員 調査項目の①について、将来の夢や目標を持っている人がこれほどたくさんいるのは素晴らしいと思う。それに対して、卒業後の進路志望が決まっている生徒の割合が低いというのは、夢はあるがどうすれば良いか分からないとように見えてくるのだが、この点についてはどう分析しているのか。
- 課長（敬学校長） 今の夢に向かって複線的な進路があるということで、目指したい夢はあるのだが、具体的な進路が決まっていな生徒が多いようである。
- 南部委員 私たちの時代は、何をするか決まっていなが、とにかく大学に行けという感じで、目先の目標はあるが大きな目標を見失っていた生徒が多かったように思う。今の子どもたちは、昔とは違うのかなという感じがした。
- 西野委員 進路を決める上で参考になった行事について、特にないと答えた生徒の割合が2番目に高いが、見学会等に行く生徒はどれぐらいいるのか。
- 課長（敬学校長） 各学校では大学や企業見学等を進めており、見学に関しては高校1年生ぐらから、大学訪問に関しては高校2年生ぐらから始めている。
- 西野委員 特に参考にならなかつたということは、見学に行ったけどそれが直接的に自分の進路に影響しなかつたのか、それとも見学等に参加してないということなのか。
- 課長（敬学校長） 各学校では進路指導部を中心に進路決定の支援になるような取り組みを行っている。特に参考になった行事がないというのは、それらの取り組みの中では進路を決めるに至らなかつたということである。
- 原委員 多分1年生のデータも入っているんで、こういう結果になるのではないかと。学年ごとに見ていくと、学年が上がると割合が低くなっている。
- 学校教育幹 調査期間が6月下旬から7月なので、当然高校1年生は進路に関する行事を経験してない。1年生ではこのような調査結果になってしまう。
- 教育長 本来は1年生ぐらで、進路に関わる行事に参加することが大切である。文系理系を2年生で選択するのだから、1年生でキャリア教育にしっかり取り組めるようにしていかなければならない。
- 西野委員 進路について早い時期から興味を持っていて、1年生の時から大学見学に行っている生徒もいたりするので、本人の意識で結構変わってくる。
- 学校教育幹 この調査後に先輩から話を聞いて、1年生でも夏休みの期間にこういう行事に参加している生徒もいる。
- 西野委員 16番の国や地方の政治にどの程度関心がありますかという質問について、学年が上がるとつれて極端に関心が増えるということでもないのか。
- 課長（敬学校長） 3年生になって極端に数字が上がるとのことではない。

学校教育幹 　この質問項目は、選挙権が18歳になったことから、昨年の教育委員会で指摘を受けて新たに加えた質問である。次年度以降、経年結果を見ていきたい。

原委員 　通塾率について、福井では23，5％で昨年度とあまり変わっていないのだが、他県と比較するとどうなるのか。また、インターネットの利用率が増えている中で、スマートフォンやインターネットの使い方の指導については、どれぐらい行っているのか。

学校教育幹 　通塾率について、他県の状況に関する具体的な数字がないので比較できない。県外の高校の校長先生から聞いた話では、だいたいどの学校も高校3年生で5割ぐらい、東京都立の日比谷高校や戸山高校あたりでも半分ぐらいらしい。本県の23，5％という数字は職業系も含めたものなので、他県とよく似た割合なのかなという感じもする。

しかし、ここでの5割という数字は一部の学校の数字であるので、県全体の平均かと言われると単純に比較することは難しい。

インターネットについては、情報活用能力ということで、中学校では技術家庭科を中心としたいろいろな教科で取り組んでいる。高校でも必修教科の情報で情報活用能力や情報モラルなどについて指導している。

南部委員 　学習塾の関連で、この調査で地域差というのは抽出できるのか。塾という環境が整備されている所は塾に行けるチャンスが多いが、整備されていない地域の生徒は行きにくい状況にあるのではないか。

課長（高校学向上） 　県内でも都市部と田舎では、塾環境や校外での学習環境に差があると認識している。それをどのように埋めていくのか、これからの課題だと考えている。

学校教育幹 　昨年、英検加点の話の際に地域差があるのではないかという指摘をいただいた。その時に調べた中学校の状況で言うと、福井市が高いのではないかと思っていたが、思っていたほど地域差はなく、例えば奥越も若狭も含めて大した差は見られなかった。平均から数パーセントの差はあったかもしれないが、大体四十何パーセントから五十何％ぐらいの間であった。

南部委員 　公表しにくい数字ではないのか。

学校教育幹 　そうである。

教育長 　元々この調査は、分かる度調査という学校での授業がどれぐらい分かるのかという所から始まっている。この調査では、このクラスのこの先生の授業は分かりやすいなどと云う事がつかめてくる。

南部委員 　これ以外に、無記名での調査はあるのか

学校教育幹 　いじめに関する調査などがある。

南部委員 　授業の内容や睡眠時間などの生活に関する質問もあるが、このように生活全

般について聞くのは、この調査だけなのか。

学校教育幹　　そうである。

教育長　　中学校では、学力調査 S A S A の中で聞いている。

山本委員　　この調査は、どういうスタイルで行われているのか。授業時間で実施するのか、家に持ち帰って書いているのか。

課長（高校学向上）　学校の授業時間で調査を行っている。

（２）学校業務改善について

西野委員　　４番の勤務時間シフト制の導入について、他県で実際に実施している学校はあるのか。

学校振興課長　まだそんなに広くはないが、県外の中学校で、週２回ほど先生方にゆっくり来てもらっている事例があったので紹介した。これを始めたきっかけは、頑張っている先生が過労で倒れたことで、校長先生が現状システムの中で何かできることはないかと発案されて、実際に取り組んだものである。

福井県内でも、シフト制について高校から問い合わせがあり、県外の事例と絡めながら提案として出させてもらった。

西野委員　　例えば、これを実際に行うとなると、そのシフト管理を誰がするのが結構重要になってくる。

学校振興課長　好きに休んで、遅らせて下さいでは上手くいかない。例えば、１時間目の授業が空いていれば、その時間を遅らせるというのは可能である。時間割の問題など、いろいろな問題はあると思うが、１つの可能性として提案した。

西野委員　　管理する人は、やはりスキルが必要になってくる。上手くいけば、たいへん効果があると思うので、他から参考になることを取り入れながら、少しずつでも進めてほしい。

南部委員　　業務改善の進捗状況や成果の把握、結果の求め方はどうしていくのか。

学校振興課長　これから毎回の教育長会議や校長会で話を持ちたいと考えている。その際に、進捗管理や広がり具合などを見ていく。現場の声がいろいろな所から入ってくるので、そこでも状況を見ていきたい。

また、毎月、勤務時間の残業時間について報告を受けており、数値的なデータからは確実に残業時間が減ってきていることが分かる。それをさらに進めていきたいと思う。

教育長　　各市町の教育長は、３年間で残業時間８０時間超をゼロにすることについて、共通認識を持っており、各学校の状況について調査を行っていただいている。

全市町の教育長には、県からの提案を取り組もうということで理解も得ている
しかし、実際にはなかなか難しいようであり、ある教育長から聞いた話では、
実際現場に戻すといろいろな反発もあるらしい。特に若手の教員が教材研究で
悩んでいるようで、一般企業の場合なら書類等を共有することが普通であるの
に、学校現場ではなかなかしようにしない。共有化している学校も増えてはい
るが、悩んでいる若手教員はまだ多い。授業で使用したプリントなどを共
有して、さらに良くしていこうとすれば良いのだが、現場ではそこまで進ん
でいないようである。このような話を教職員組合の青年部から聞いたのだが、こ
のことにについて市町の教育長に提案したら納得してもらえた。

南部委員 良いものをさらに良くしようとブラッシュアップすることが大切である。

教育長 引率業務の簡略化も他県では進んでいる。

学校振興課長 国は、子どもたちに対して手厚く向き合うことを勧めており、最初から最後
まで見ないといけないということもあるが、現地集合などで対応している部活
動も多いという報告も受けている。

西野委員 簡素化について、現実に進めていけば十分可能であると思うが、欠席連絡の
メールについては違和感がある。職場で、メールで休むことについてのやり取
りになった場合に非常識だなと感じる時もある。

学校振興課長 心配されている点は、しっかり向き合った対応が電話でできるのだろうかとい
うことだと思う。具合はどうですか、お医者さんには行かれましたか等、こ
れまで長くやってきた対応のやり方は今後も大切にしていきたい。
ここでの連絡は、第一報の欠席の連絡であり、初期の部分を簡略化できない
かと考えている。気になるような子どもの場合には、その後担任から連絡を取
るようにしていきたい。

南部委員 保護者の携帯からではなく、生徒本人の携帯からの場合はどうなるのか。

学校振興課長 常任委員会でも、成りすましによる連絡だとまずいだろうという話はあった。
学校に登録している緊急連絡に保護者の携帯もあるので、そこから連絡が入る
システムにしていきたいと考えている。

学校教育幹 インフルエンザの時期になると朝の時間帯に頻繁に電話が掛かってくる。担
任の先生は電話対応でとても忙しくなる。

原委員 担任が電話対応しないといけないのか。事務等で対応できないのか。

学校教育幹 学校の規模によって違ってくる。事務が対応する場合もある。

西野委員 インフルエンザの患者が多くなったら、メールでの連絡を認めるということ
はできないのか。メールでの連絡だけだと休みやすくなってしまう気がする。
欠席する場合、親が責任を持って子どもを休ませますという意味で、親が直接
電話を入れることは大切である。メール一本で休ませるのは微妙な感じがする

ので、慎重に進めるべきである。

学校振興課長 このシステムについては、他県の例として紹介しているものであり、他県での状況も見ながら進めていきたい。

南部委員 学校によって、メール連絡が認められている学校と認めていない学校があると、付和雷同していくこともあると思うので、その点を慎重に進めてほしい。

教育長 日程第１、第２７号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 第２７号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第２、第２８号議案を議題

教育政策課長 資料に基づき説明

教育長 第２８号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第３、第２９号議案を議題

教育政策課長 資料に基づき説明

教育長 第２９号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

◎協議・報告事項

（３）文部科学大臣表彰の推薦について

- ・キャリア教育表彰
- ・社会教育功労者表彰
- ・優良公民館表彰

（４）管理職試験の受験資格に係る年齢制限の引下げについて

(5) 公文書公開請求に係る審査請求答申について

(6) 令和元年9月県議会質疑について

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後5時00分